

529ヘクタールの水源の森からのホットな情報発信



やどりき水源林ニュース

発行（公財）かながわトラストみどり財団 編集（認定NPO法人）かながわ森林インストラクターの会

〒220-0073 横浜市西区岡野2-12-20 神奈川県横浜西合同庁舎内

☎045-412-2255 URL:<https://www.ktm.or.jp>

E-mail: midori@ktm.or.jp

イガの中に、美味しいそうな
栗の実を見つけました

やどりき水源林森の案内人(定期)観察会のお知らせ（費用等負担はありません）

毎週土曜・日曜の午前10時と午後1時から「NPO法人かながわ森林インストラクターの会」会員が水源林をご案内します。やどりき水源林ゲート前までお越しください。なお、冬季（12月・1月・2月）は安全確保のため休止します。

夏から秋へ変わるやどりき水源林



やどりき水源林は、10月に入ると、深緑の夏から、彩りの秋へとすこしずつ姿を変えてきています。

水源林の中央を流れる寄沢では、秋の七草のひとつ、ススキが大人の背丈を超えるほど伸び、穂の先が綿毛となつて揺れている風景が広がり、まわりのモミジの葉が黄色みを帯びてきました。

林道コースで、見つけた草木の実



アオギリの実は、葉のように見える心皮の淵に付いて風に舞いながら種を遠くに運びます。



ツノハシバミはハシバミの一種で、実にツノがあるように見えることから名付けられました。種は食べられます。



クサギは、独特な葉の匂いからクサギと名付けられました。赤い星型のガクに縁どられた青い実はとても可愛らしいです。



ジャケツイバラは、マメ科の落葉つる性低木です。鋭い棘があり、4月から5月にかけて黄色の花が咲き、種はマメ科特有のさやの形をしています。



サンショウは、紅葉と同じように、青い実が赤色に変わっています。この皮を乾燥させて粉山椒が作られます。



ヤシャブシの実の形は独特で、リースなどに使われています。昔は、多くのタンニンを含むことから、お歯黒に使われていました。

やどりき水源林の秋の花とキノコ



**フユノハナ
ワラビ**

冬に現れるシダの仲間です。“花”的ように見えるツブツブは胞子葉です。



ツリフネソウ

繊細な形をした花です。帆掛け船を連想することから名付けられました。花言葉は“私に触らないでください”などがあります。毒性があり、食べられません。



ツルニンジン

キキョウ科に属す花です。釣鐘のような花が終わると枯れてしまいますが、毎年新しい芽を出し、花を咲かせます。



キンモクセイ

水源林の一角からキンモクセイの香りがしてきました。

昔の人は「金木犀の香りがしてくると、山にキノコ生えてる合図」と言っていました。この時期には、さまざまな種類のキノコを見つけることができます。



**カラカサタケ
の仲間**

カラカサタケは、成長すると唐笠のような形になり、遠くから発見できるほど大きくなります。



**ベニチャワン
タケの仲間**

落枝に生えるキノコです。鮮やかな赤い色でお茶碗のような形をしています。



**ツチグリ
の仲間**

漢字では“土栗”と書きます。クリのようなコロンとした形から呼ばれています。

※ 野生のキノコは食用と確定しない限り口にすることは止めましょう。

「かながわ森林インストラクターの会」の活動紹介



「かながわ森林インストラクターの会」は、神奈川県が認定する森林インストラクターがメンバーとなり、県が進める「かながわ水源の森林づくり」に協力し、山仕事の指導、自然観察、森林文化の普及啓発イベントの開催などの活動を行っています。10月にはやどりき水源林で実施された神奈川県森林インストラクター養成講座への講師派遣、また現役のメンバーに向けては、キノコ講習会が実施されました。常にブラッシュアップし、県民の皆様に森林の大切さをお伝えできるよう努力を重ねています。

11月のやどりき水源林

やどりき水源林では、川のせせらぎを聞きながら、紅葉が楽しめる季節を迎えます。

毎週土曜と日曜日（10時と13時 ゲート入口集合）に「かながわ森林インストラクターの会」のメンバーが森の案内人となって、やどりき水源林をご案内しています。是非、この美しい森の季節にお越しください。

